

インターン報告書

慶應義塾大学総合政策学部3年 原めぐみ

私はこの夏、JFC ネットワーク東京事務所にて一か月間のインターン、並びに現地スタディーツアーに参加させていただきました。この夏の経験は自分自身のことを含め、多くのことを考えるきっかけとなり、私を大いに成長させてくれました。

高校時代でのフィリピン留学を機に、私はフィリピンとフィリピンに住む人々が大好きになっていました。大学に入学後も私のアンテナにはいつも「フィリピン」というキーワードが引っ掛かり、研究会でのテーマは海外フィリピン人出稼ぎ労働者を取り上げてきました。

私が JFC ネットワークを知ったきっかけは、もともと関心があった JFC に関する問題に向き合う NGO、マリガヤハウスとの出会いでした。2007年3月にマニラにてマリガヤハウスの事務局の河野尚子さんにお話を伺い、JFC の現状を垣間見ました。また、2007年2月にフィリピンのメディアでも話題になっていた JFC 9人の国籍確認訴訟は JFC ネットワークが起こした裁判であるということとその際初めて伺いました。事務局2,3人で仕事を進める比較的小さな NGO が、日本にある東京事務所と連携をとりながら日本の法廷で国を相手取って闘っているという事実を知り、それを応援したいと思いました。それが東京事務所にて研修をさせてもらうことになった所以です。

JFC ネットワーク東京事務所での主な仕事は、手紙や各種書類の翻訳と打切ケースの整理などの事務作業、また事務所がお休みの日は東京に住む中学3年生 JFC の女の子の家庭教師でした。事務所にいると毎日慌ただしくケースが進行していくのをリアルタイムでみる事ができました。クライアントからの電話が次から次にかかってくる、マリガヤハウスから新規ケースがたくさん届いたり、父親がいきなり事務所に来たり、と目まぐるしくいろいろなことが起こりました。また事務所以外での活動もさせてもらいました。協力団体である川口市のカフィンを訪ねて行ったり、千葉にある家庭裁判所に同行させてもらったりしました。

その中で印象的だったのがフィリピン人の夫婦に付き添って、フィリピン大使館へ婚姻届の提出に行ったときの事です。例によってその日もフィリピン大使館は人でいっぱい、婚姻届を提出するだけなのに4時間ほどかかりました。やっと提出できたと思ったら、大使館の二階に呼ばれまた待機されました。何が起ころのだろうと思っていたら、その日婚姻届を提出した4カップルを対し結婚式のようなものを大使館が執り行いました。大使館での結婚式はとって「マタミス！（あま〜い）」で、長い時間待った甲斐があったと感じました。

このようにこの研修を通じて普段の大学生活ではできないたくさんの経験をさせていただき、様々なことを学びました。その中でも一番強く心に残っているのはクライアントや JFC の子どもたちから教わった、逆境の中にも笑顔でいる強さです。特に私が家庭教師をしていた中学3年生の JFC の女の子は、両親がオーバーステイのため逮捕され、家族が離れ離れになった過去を乗り越え、くじけることなく一生懸命勉強に励んでいました。彼らの強さに刺激を受け、私も今の状態に甘んじず、日々の生活に切磋琢磨して生きていく必要があると感じずにはいられませんでした。

最後に、お忙しい中面倒を見てくださったスタッフの方々をはじめ、今回の研修につきましてご理解くださいました理事の方々にも深く感謝しております。JFC の子どもたちの未来がより明るいものとなることを願い、微力ながらこれからも応援していきたいと思えます。